

事務事業評価シート (評価対象年度：令和 2 年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名		青少年教育団体支援運営事業				②事業番号		7610	
③事業類型		3. 政策推進事業		④開始年度		昭和 59 年度		⑤終了予定年度	
⑥根拠法令等		法令		⑦実施手法		〇 直営		〇 設定なし	
⑧関連予算科目コード		款 9		項 5		目 4		細目 3	
⑨担当部名		⑩担当課名		計		一般会計			
教育部		生涯学習課							

2. 事務事業の現状把握【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)		対象指標(対象者数を表す指標)		単位	
① 青少年吹奏楽団		① 団員数		人	
② 少年少女合唱団		② 団員数		人	
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)		活動指標(活動の量を表す指標)		単位	
泉南市青少年吹奏楽団及び少年少女合唱団に対し、練習場所の確保及びコンサート等の運営の補助・備品の管理等を行っている。 練習日 吹奏楽団 毎週土・日曜日 合唱団 毎週土曜日		① 練習回数(吹奏楽団)		回	
		② 練習回数(合唱団)		回	
		③			
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)		成果指標(意図の達成度を表す指標)		単位	
演奏会をはじめとする各行事への参加や青少年活動への助成を通して青少年の健全な成長と泉南市の文化の高揚と発展に努める。		① 発表会の回数(吹奏楽団)		回	
		② 発表会の回数(合唱団)		回	
		③			
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)		総合計画体系上の位置付け			
青少年活動を通じて、青少年の健全育成や団員自身の技術の向上及び文化に対する市民の関心が高まり、発表や仲間との交流がはかれている。		政策(章)		1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち	
		施策大(節)		4 だれもが、いつでもどこでも学べる生涯学習推進のまちをめざします	
		施策中		2 生涯学習内容の充実	
		施策小		1 活動・発表・交流の場と機会の提供	

〔2〕各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H30実績	R1実績	R2実績	R3見込	R4目標	指標値の推移における特殊要因などの説明
対象指標①	団員数	人	30	30	30	30	31	R2年度の活動指標①、活動指標②、成果指標①及び成果指標②の減は、新型コロナウイルス感染症の影響による練習及び発表会が中止となったため。
対象指標②	団員数	人	5	4	4	4	5	
活動指標①	練習回数(吹奏楽団)	回	100	68	45	81	81	
活動指標②	練習回数(合唱団)	回	50	38	28	48	48	R2年度の減は、新型コロナウイルス感染症の影響による練習及び発表会が中止となったため。
活動指標③								
成果指標①	発表会の回数(吹奏楽団)	回	14	13	3	13	13	
成果指標②	発表会の回数(合唱団)	回	1	3	0	3	3	R2年度の減は、新型コロナウイルス感染症の影響による練習及び発表会が中止となったため。
成果指標③								
事業費	投入人員	人	0.24	0.24	0.22	0.22		
	任期付職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		R2年度の減は、新型コロナウイルス感染症の影響による練習及び発表会が中止となったため。
	臨時職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	事業費	千円	1,946	1,851	1,679	1,679		
財源内訳	直接事業費	千円	2,254	1,965	1,081	1,982		R2年度の減は、新型コロナウイルス感染症の影響による練習及び発表会が中止となったため。
	総事業費	千円	4,200	3,816	2,760	3,661		
	国庫支出金	千円	0	0	0	0		
	府支出金	千円	0	0	0	0		R2年度の減は、新型コロナウイルス感染症の影響による練習及び発表会が中止となったため。
	受益者負担金	千円	0	0	0	0		
	その他特定財源	千円	0	0	0	0		
一般財源		千円	4,200	3,816	2,760	3,661		

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	青少年活動の興隆を目指すとともに音楽活動を通じて市内青少年の連帯と親睦を図る為。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	毎年演奏会等への来客数が多く、市民の関心は高いと考えられるが少子高齢化等により合唱団、吹奏楽団ともに団員数が減少傾向である。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	—

3. 事務事業の評価【CHECK】

[1]目的妥当性(必要性)				[1]の評価	A
評価項目		評価及び理由・説明等			
①事業サービス内容、質、規模等は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)		ア. 合っている アイ. ある程度 ウ. いない	近年、演奏会への来客数が増加している。中には満員で入れないコンサートもあり市民ニーズは非常に高いものになってきている。		

[2]有効性				[2]の評価	A
評価項目		評価及び理由・説明等			
②期待どおりの成果が得られていますか。		ア. 得られている アイ. ある程度 ウ. いない	定期演奏会・市の行事に参加することで市民の市政への関心や理解を深めるうえでも効果的な広報活動につながっている。		
③今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができませんか。)		ア. ある アイ. ない	より一層、市民に関心持ってもらえるよう広報等の活動を積極的に行う。 類似の事業と合わせて実施するなどの方法を検討する。		
④庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。		ア. 類似なし アイ. できる ウ. できない	—		

[3]効率性				[3]の評価	A
評価項目		評価及び理由・説明等			
⑤成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費+人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)		ア. ある イ. ない	可能なものはすでにコスト削減を行っており困難である。		

4. 総合評価

総合評価	評価(A～D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A: 現状のまま事業を進めることが適当 B: 課題が少しあり事業の一部見直しが必要 (事業の進め方に改善が必要) C: 課題が多くあり事業の大幅な見直しが必要 (事業規模、内容、実施主体の見直しが必要) D: 事業の統合、休止・廃止の検討が必要
	B	少子高齢化等により団員数が横ばい、減少傾向である。また、コロナ禍、アフターコロナの中での活動の在り方が課題である。	

5. 改革、改善案【ACTION】

<今後の方向性>	
イ	ア. 現状のまま継続 イ. 見直しのうえで継続 ウ. 終了 ↓ (年まで) エ. 休止 ↓ (年から) オ. 廃止 ↓ (年から)
<今後の展開方針>	
b	a. 重点化する(集中的なコスト投入) b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) c. 効率化する(コストを下げる) d. 簡素化する(規模を縮小する) e. 統合する(他の事務事業と統合する)
①改革、改善の具体案、実施年度など	
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策	